

令和4年度 自己評価報告書

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン準拠

学校法人鬼木医療学園

国際鍼灸専門学校

令和5年9月

項目

- 基準1. 教育理念・目的・育成人材像
- 基準2. 学校運営
- 基準3. 教育活動
- 基準4. 学修成果
- 基準5. 学生支援
- 基準6. 教育環境
- 基準7. 学生受入・募集
- 基準8. 財務
- 基準9. 法令遵守
- 基準10. 社会貢献地域貢献

基準 1. 教育理念・目的・育成人材像

項目	評定	現状
1. 理念・目的・育成人材像は、定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	4	教育理念 学生と教職員が共に考え、学び、行動することで保健・医療・福祉・地域社会に貢献できる人材を育てる。 教育目標 ① 豊かな感性と高い技能・技術、誠実な態度、実践的能力を身に付ける。 ② 「鍼師、灸師、あん摩マッサージ指圧師の使命」を認識し、それにふさわしい人格者となるための教育といたわりのある奉仕的精神を養う。 【学生便覧、HP（ホームページ）】
2. 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか。	4	学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を開き、外部意見を教育課程に反映している。また、同窓会や業団に関連する集まりなどを利用し業界や仕事に関する情報を収集し、参考にしている。
3. 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか。	4	確実な国家資格はもとより、理論に裏付けられた治療ができ、地域社会の要請に対応できる高い技術と優れた人間力を備えた人材の育成を目指している。そのために教育理念、教育目標を達成するため、運営方針を2年ごとに見直している。 【シラバス、学則】
4. 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか。	4	超高齢化社会を見据えた、あん摩マッサージ指圧鍼灸師の育成や就職先として様々な関連する分野における幅広い知識や技術の習得を強化している。 「国際鍼灸専門学校ビジョン2027」の長期計画が策定されている。 【国際鍼灸専門学校ビジョン2027】

※評定 適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1

①課題

・理念や目標、育成人材像などを周知する対象（学生、教職員、入学検討者、高等学校関係者、業界など）には積極的に発信している。しかし、あはきの受療率の動向を踏まえ、多くの国民に国家資格者による施術の魅力を発信することが重要と考える。
・社会情勢の変化に伴う様々な問題や業界のニーズの把握等を踏まえて、中長期的な目標、事業計画を策定する必要がある。

②今後の改善方策

・学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会などでは、委員の構成種別や人数などを増やし、更なる幅広い意見や評価からニーズにあった教育活動を見直し、育成人材像などに反映

していく。

- ・業界のニーズや動向の把握に努め、同窓会、外部臨床実習、企業説明会など、積極的に意見交換の機会を設ける。
- ・企業などの外部組織との連携を強化し、より実践的かつ専門的な職業教育を目指す。
- ・HPや外部との交流の中で、本校ならびにあはきの魅力を積極的かつ効率よく情報発信する。

③特記事項

なし

基準 2. 学校運営

項目	評定	現状
1. 理念、教育目標に沿った運営方針が策定されているか。	4	理念、年次教育目標を基に運営方針が策定されている。 【事業計画書、令和4年度教育目標】
2. 理念、教育目標、運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	理念、年次教育目標を基に年次事業計画が理事会で決定される。 【事業計画書】
3. 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	組織図が規程で示され、各種会議が定期的開催されている。 日常的な事項の決定は理事長、校長並びに教職員全員が出席する学校運営会議にて行われている。この意思決定に基づき、教員会議や各種委員会が対応を検討し実行している。このように、本校の意思決定の過程は確立され、円滑に遂行されている。 【組織図】
4. 人事、給与に関する制度は整備されているか。	4	就業規則により明確に定められている。 教職員の採用に関しては、採用基準に基づき運用している。 【就業規則】
5. 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか。	3	各組織ごとに会議等を実施して意思の疎通を図っている。 【運営会議議事録、教員会議議事録】
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	法令に加え寄付行為、学則、就業規則等を遵守し、社会的な責任を果たすことを重視し、学校運営を行っている。 倫理的な価値観や行動規範に基づいて行動し、業界や地域社会からの信頼を築くことに努めている。

7. 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4	教育活動等に関する情報は「学校案内」「募集要項」「HP」「学校説明会」等で受験生、保護者などに周知している。 また、職業実践専門課程の公開が義務付けられている情報をHPにて公開している。 【学校案内、募集要項、HP】
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3	教務、広報、学務などのデータを共有し、作業効率と学生サービスの向上のため業務システムの構築を進めている。

①課題

- ・学校運営に係る組織づくりや事業計画の策定はなされているが、更に効率的で時代に合わせた体制強化が必要である。
- ・規程の見直し、整備、運用を徹底し、管理できるシステムを検討する。
- ・学内の組織が効率よく活動できるように再編成が必要である。

②今後の改善方策

- ・業務の効率化が改善されるように情報システムの構築を更に進める。
- ・新たな中期事業計画を策定し、学校経営方針や業績重要課題をより明確化した上で、教職員への周知を徹底し実現に向け取り組む。
- ・中長期的な視野に立った学校運営方針をより明確にする。

③特記事項

なし

基準 3. 教育活動

項目	評定	現状
1. 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	教育活動は建学の精神・教育方針・目的に従い、「令和4年度教育目標」を年度初めに設定し、学校運営会議にて審議決定し教職員に周知している。 【国際鍼灸専門学校ビジョン2027】
2. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	厚生労働省認定規則に則し、教育目標に沿った適切な科目を選定し、学習時間を設定している。学校生活を通し、スペシャリストとしての人材育成（知識・技術・態度）を教育方針としている。 【学生便覧、シラバス】

3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3年間における教育到達レベルを踏まえ、1年次は基礎および専門基礎分野、2年次は専門基礎および専門分野、3年次は専門分野および実践に向けた実技授業と国家試験の対策を実施している。 学生アンケートを教科終了時に実施している。 【学則、シラバス、学生アンケート】
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか。	3	進路指導の担当専任教員及び事務が中心となって、就職セミナー、進路相談、求人受付及び求職者（学生）への求人提供を行っている。3年生へは6月と9月に就職セミナーに加え、今年度からは企業説明会を開催した。また、1年生2年生に対する進学・就職のアンケート調査を実施し、相談者には適時進路指導教員が対応している。
5. 関連分野における実践的な職業教育（医療機関との連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	3	学外臨床実習においては、大学附属病院、介護施設、トレーナー施設で実習を実施している。特別授業として各分野（スポーツ、美容、訪問マッサージ）の実技、講義を行っている。 【HP、学校案内】
6. 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3	学科終了時には、アンケートを実施し、授業担当教員にフィードバックし、次年度の授業計画に反映させることを要請している。 【学生アンケート】
7. 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を開催し、授業に工夫する取り組みをしている。東洋療法学校協会による認定実技評価を実施し、評価を取り入れている。
8. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	シラバス、学生便覧に成績評価、進級・卒業判定の基準が明記されている。 【学生便覧、シラバス】
9. 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	厚生労働省認定規則に則し、教育目標に沿った適切な科目を選定し、体系的なカリキュラムの編成を行っている。教育課程編成委員会を開催し、カリキュラム編成に意見を反映している。 【カリキュラム編成委員会議事録、教育課程編成委員会報告書】
10. 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	教員の採用に当たっては厚生労働省の学校養成施設認定規則に定める要件を有する者の採用を厳格に遵守している。専任教員は、全員が臨床経験を持つとともに、附属鍼灸治療所にて治療を実践し臨床力を維持している。

11. 関連分野における先端的な知識技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか。	4	東洋療法学校協会の研修会および全日本鍼灸学会学術大会や各勉強会に参加し、新しい知識の習得に努めることと、指導力の向上に取り組んでいる。
12. 職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	外部団体が主催する研修会への参加を推奨しており、教職員が参加している。

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動においては、職業教育として時代の変化に対応できているかを常に調査チェックし、定期的な見直しが必要である。 ・学習能力の高い学生と低い学生の二極化の傾向がみられるため、教育の工夫をする必要がある。

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム編成委員会で、検討を重ね、体系的なカリキュラム編成を行う。 ・学校関係者評価、教育課程編成委員会の意見を活用し、カリキュラム編成を行う。 ・全教科の授業アンケートについて、授業担当教員の授業に活用できる建設的なものとなるよう、実施方法と内容を常に改善していく。 ・個々の学生に学習能力の個人差があるので、それぞれの学生が理解できるよう、指導力向上を目的とした研修への参加や自主的な活動を行う。
--

③特記事項

なし

基準 4. 学修成果

項目	評定	現状
1. 就職率の向上が図られているか。	3	斯界のリーダーとして活躍している卒業生に、就職に関する話をしてもらおう就職セミナーを配置している。また、求人情報を常に公開し、学生に対して進路指導委員長及び各担任が進路相談を行っている。

2. 資格取得率の向上が図られているか。	4	<p>3年生に対しては通常授業に加え、実力テストを年間2回、学校協会統一模擬試験、放課後の補講等を行い、国家試験対策を強化している。さらに、担任による指導・補講が行われ、成績不良者の底上げを図っている。</p> <p>1年次より、成績不良者には放課後に補講を行い、丁寧な学習指導をして、成績の底上げを図っている。国家試験の合格率はあん摩マッサージ指圧師が100%、はりきゅう師は89.3%となった。</p>
3. 退学率の低減が図られているか。	3	<p>担任による個別面談により、学生の生活習慣の把握、学習指導を行い、「担任指導記録」を作成している。早期より担任が、出席状況を細かく確認し、成績不良者の把握と対象者への指導、補講を行うことで成績不良者による退学者の低減に努めている。学生だけでなく保証人〈保護者〉との連絡を密にして家庭での学習環境を整える協力をお願いし、退学者、留年者の低減に努めている。</p> <p>退学意思のある学生は、担任・学科長・校長が段階を追って、相談に応じ、学業の継続的な支援に向けた取り組みを行っている。経済的な理由による退学に対しては、奨学金の各種制度の活用、学費分納に関する相談等に応じている。</p>
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3	<p>関連学会・業界の学術大会、各種研修会、講演会への積極的な参加を推奨し、各種案内の掲示を行うと同時に卒後の進路変更等、各種相談を行い、在校生及び卒業生の活動状況の把握に努めている。同窓会が発行する会誌及び年に1回の卒業生と在校生との交流会を実施している。</p> <p>【同窓会報】</p>
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	2	<p>同窓会の活動を支援し、キャリア形成の促進に努めている。今後も、様々な情報を在校生教育活動の改善に活用していく。</p>

①課題

- ・今年度新卒者のあま指師国家試験合格率は100%ではあるものの、はり及びきゅう師は89.3%であったので、合格率100%を目指して学生指導をしていく。
- ・今年度と前年度の退学者数に変化がなかった。半数以上は成績不良が原因であり、早い段階で学生の状況を把握し、一人一人に対応することが必要となる。

②今後の改善方策

- ・今年度も年末年始、国家試験直前まで補講を拡大し、国家試験合格率100%を目標に、更なる成績不良者への指導を強化する。

- ・更に退学者を低減するため、学生との面談を密にし、早期の状況把握をして退学者の減少を図る。
- ・引き続き、進路指導委員長を中心にキャリア教育を進める。また同窓会との連携を強化し、卒業生とのネットワークを広げていく。
- ・卒業生などから得られた情報を活用し、キャリア形成に関する方策を立て、在校生へフィードバックする機会を設けていく。

③特記事項

なし

基準 5. 学生支援

項目	評定	現状
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	求人情報は逐一学生に公開している。外部の就職説明会は積極的に学生への案内を行っている。卒業生による就職セミナー、企業説明会、就職支援を行った。
2. 学生相談に関する体制は整備されているか。	3	各学年の年度開始より学生全員に対して、担任による面談を行い、学生生活、学習に関する相談を受けている。また常に学生の悩み事にも個別に担任が対応している。クラス担任、進路指導の担当が窓口となり、進学や就職等の進路相談を個人情報が見守られるよう配慮し、学生が相談しやすい環境の維持に努めている。
3. 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。	4	奨学金の各種制度の活用、学費分納に関する相談等、相談に応じている。本年度は専門実践教育訓練給付金制度の対象講座になったため、学生への経済的支援が充実した。
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3	健康管理面では、「健康診断規程」に従ってすべての学生を対象とした健康診断が年1回行われている。健康上の問題がある場合には担任より医療機関の受診などを勧めている。入学時には胸部X線撮影を行っている。学校附属治療所の利用も可能である。また、心理面に不安を抱えている学生にクラス担任が相談に応じている。
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか。	2	課外活動に対しては放課後の学校施設を開放できるように、必要なサポート体制の整備を進めている。
6. 学生の生活環境への支援は行われているか。	3	校内及び敷地内は全面禁煙制度を実施しており、学生の修学環境維持に努めている。各教室、実技室に教室緊急対応メモを準備し、体調不良になった学生の初動対応や教職員間の情報共有に活用している。

7. 保護者と適切に連携しているか。	4	保護者に成績表を送付し学生の成績を通知している。成績不振等の状況によっては保護者を含め担任、または担任と校長による面談を行っている。また、体調不良等の健康面についても、場合によっては保護者とも連絡を取り、対応している。担任教員は急病や事故等の緊急時における学生間及び教職員間の緊急連絡体制を確保している。
8. 卒業生への支援体制はあるか。	4	入学者は自動的に「同窓会」に加入し、各界で活躍する卒業生のネットワークとして機能している。会員数は5,000名を超えている。年に1回「同窓会総会」が校内にて開催され、在校生との交流会、「卒業生の成功の秘訣」等の講演、パネルディスカッション等を行っている。今年度からは校内を利用して、対面で実施し交流を深めた。また毎月1回、校内で卒業生による卒業生のためのアドバンスコースを実施していて研鑽の場になっている。卒業生には附属鍼灸治療所を臨床研修の場として提供している。
9. 国家試験不合格者に対する支援体制はあるか。	4	国家試験不合格者に対しては、授業や国家試験対策特別補講への聴講を促している。聴講願いを提出し、聴講生として授業を聴講する。これら聴講、資料の配布はすべて無料にて教育支援を行っている。また随時3年次の担任が相談を受ける体制となっている。

①課題

・学生の心理面の不安に対してクラス担任だけの対応では良い方向に改善されずに退学してしまう学生がいる。退学率を下げる様々な対策が必要である。

②今後の改善方策

・心理カウンセラーや提携医療機関などの支援組織体制の整備を行う。
 ・課外活動やボランティアなどを行うにあたり、関係業団体との連携を強化し、体制整備を行う。

③特記事項

なし

基準 6. 教育環境

項目	評定	現状
----	----	----

1. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	4	養成施設指定規則および指導ガイドラインに基づき、施設・設備・教育用具等を整備し、点検を行っている。 建築物衛生法に従い、建屋環境を管理している。 新たに超音波診断装置を導入し、特別授業として実技授業を実施した。今後は研究にも取り組み、通常授業にも取り入れる。
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	3	学外臨床実習施設として大学附属病院、介護施設、トレーナー施設と提携している。また、附属鍼灸治療所で臨床実習を実施している。 今年度もコロナの影響により、介護施設や病院などでは延期や中止が続いている。
3. 防災に対する体制は整備されているか。	4	施設の耐震基準を満たしており、消防施設等の点検は適切に行っている。新入生には入学後すぐに避難訓練を実施している。避難場所を南葛飾高等学校から、本学園の青戸校舎駐車場へと変更した。 9月には防災訓練として全館の緊急時における放送訓練を実施しており、大災害発生時に備え帰宅困難時を想定した飲料水、食料、カイロ等の備蓄が図られている。水災に対しても立石校舎4Fに避難するマニュアルを作成した。 自動体外式除細動器（AED）を設置し、取扱いについて教職員を対象に講習会を開いている。また、救命講習会を1年生を対象として行っている。 学内の安全対策として、教室などの備品の固定なども取り組んでいる。

①課題

- ・新たなマニュアルを作成し、避難時における訓練も実施している。
- ・コロナ禍にて、医療施設や介護施設実習先の受け入れが難しい状況になっている。

②今後の改善方策

- ・今年度は5名の臨床実習指導者の認定となり、更なる増員を図ることにより、早期に外部施術所実習を実施する。
- ・現在、コロナの影響により中断している実習先については、今後の対応を探りながら、新たな外部実習先の検討を行う。
- ・防災関連の器具、運用などを踏まえ、防災訓練を計画し、実施する。

③特記事項

なし

基準 7. 学生受入・募集

項目	評定	現状
1. 学生募集活動は、適正に行われているか。	3	学生募集活動に関しては、公益社団法人東京都専修学校各種学校協会が自主規制として定めたルールを遵守して、適正に学生募集を行っている。 募集広報は、ホームページ、各種進学雑誌、フライヤーといった幅広い媒体において実施している。発信する情報は、広報部において一元化して行っている。 募集活動において、教育成果は国家試験合格率に留まらず、卒後の就職までと考え、広く正確に伝えている。 【HP、学校説明会アンケート】
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	「学校説明会」では取得資格・全教科内容の説明、国家試験の合格率、卒業生の活躍状況、有効求人倍率、就職率、実技体験、在学生と交流をする機会、学費相談、個別の質疑応答等を行っている。 【学校説明会アンケート】
3. 学納金は妥当なものとなっているか。	4	学納金の算定は経費（教育研究費、人件費、施設管理費等）を基礎に行い、改定の際は理事会で決定している。 また、提供する教育内容に照らし、妥当な水準と考えている。 入学辞退者に対する対応は、文部科学省通知に基づき適正に行っている。周知は入学募集要項に記載している。 【事業活動収支計算書、募集要項】

①課題

- ・データに基づいた効率的な募集媒体の選定と学校説明会や学校訪問等の広報活動の改善が必要である。
- ・入学選考の方法については常に検討が必要である。
- ・ホームページや募集媒体以外で人的繋がり有効活用がなされていない。

②今後の改善方策

- ・卒業生からの入学希望者の紹介が多いため、同窓会と連携し、卒業生とのネットワーク強化を図る。
- ・学校認知の活動強化と広報活動の改善を重点的にさらなる定員充足を目指す。
- ・HPの更なる改良を進め、SNS等の活用も積極的に行う。
- ・データに基づいた広報戦略の改善のための情報収集を行う。

③特記事項

なし

基準 8. 財務

項目	評定	現状
1. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	3	設備資金等は学内留保金をもって充当している。
2. 予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	3	予算作成に際し、税理士の指導のもと適切に行っている。 【HP情報公開】
3. 財務について会計監査が適正に行われているか。	4	監事による財務検査を行うとともに会計事務所との検討会を毎月1回実施している。 【HP情報公開】
4. 財務情報公開の体制整備はできているか。	4	今年度より本校のHPにて、財務情報を公開している。 【HP情報公開】

①課題

・定員未充足の状況が続いていることから、入学定員確保と中途退学者の抑制及び学校運営に関わる経費削減が重要課題である。

②今後の改善方策

・学生数の増加に伴い、学納金収入の増加傾向を高めるためにも、持続的な定員確保と中途退学者の抑制に努める。

③特記事項

なし

基準 9. 法令遵守

項目	評定	現状
1. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	厚生労働省、文部科学省には毎年実施計画書を提出している。 学則に変更が生じた場合には遅滞なく関係省庁に届出を行っている。 学校教育法、専修学校設置基準、養成施設認定規則等を遵守し、適正な運営を行っている。

2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	学生個人調書は施錠できるキャビネットに保管し、情報の持ち出しを禁じている。 PCによる管理システムを構築し、管理している。 学生には臨床実習オリエンテーションにて、個人情報保護に関する説明および誓約書の指導を行っている。外部臨床実習見学では各施設より独自の個人情報保護誓約書の提出が義務付けられている。
3. 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。	4	自己点検評価は毎年実施している。 自己点検評価内容を学校関係者評価委員会にて評価している。 【令和3年度自己点検評価】
4. 自己評価結果を公開しているか。	4	今年度より本校のHPにて、自己点検評価を公開している。 【HP情報公開】

①課題

・自己評価並びに学校関係者の評価内容を今後に反映させ、更に改善を図っていく。
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護管理規程については管理者を選定し、内部規定の整備とともに策定を進める。 ・自己点検・自己評価の内容充実を図り、委員会組織を強化し、PDCA サイクルに基づき更に改善を加えていく。

③特記事項

なし

基準 10. 社会貢献地域貢献

項目	評定	現状
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	基本方針として教育に支障のない範囲で施設・設備は公開、開放している。葛飾区の葛飾区教育委員会事務局生涯学習課と共同で公開講座「親と子のふれあい教室」を継続実施し、今年度は1回の実施であった。 社会貢献・地域貢献として施設開放では、卒業生による同窓会、業界団体への教室貸出などの利用があった。 地域住民の健康への貢献として、附属鍼灸治療所では年間2,000人の患者を治療している。

2. 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	第9回かつしかふれあいRUNフェスタ（主催：葛飾区）に学生がボランティアとして参加した。
3. 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか。	4	葛飾区の葛飾区教育委員会事務局生涯学習課と共同で公開講座「親と子のふれあい教室」を継続実施している。

①課題

・保有施設の活用においては余裕があり、外部への発信などを含めた活用方法を検討する必要がある。

②今後の改善方策

・業界団体の研修会などへ積極的に施設の貸出を行い、交流の場としての提供に努める。また、地域の集まりにも積極的に参加し貢献していく。
 ・附属治療所の存在やボランティアなどについて広報活動を進めて、活用を促進させる。

③特記事項

なし